

5 避難所一覧

No.	指定緊急避難場所	指定避難所		施設名	電話番号(0125)	災害の種類		
		指定一般避難所	指定福祉避難所			洪水	土砂災害	地震
1	○	○	-	上砂川中学校校舎	62-2104	○	-	○
2	○	○	-	上砂川中学校屋内体育館	62-2104	○	-	○
3	○	-	-	上砂川中学校グラウンド	-	○	-	○
4	○	○	-	中央小学校校舎	62-2050	○	○	○
5	○	○	-	中央小学校屋内体育館	62-2050	○	○	○
6	○	-	-	中央小学校グラウンド	-	○	○	○
7	○	○	-	勤労者体育センター	62-5225	○	○	○
8	○	○	-	認定こども園ふたば	62-4254	○	○	○
9	○	-	○	デイサービスセンター	62-6530	○	○	○
10	○	○	-	町民センター	62-5225	○	○	○
11	○	○	-	下鶉生活館	62-2558	○	○	○
12	○	○	-	鶉本町生活館	62-2436	○	-	○
13	○	○	-	緑が丘集会所	62-5394	○	○	-
14	○	○	-	鶉若葉生活館	62-2676	-	○	○
15	○	○	-	中央ふれあいセンター	62-2457	○	○	○
16	○	○	-	朝駒集会所	62-5390	○	○	○
17	○	○	-	産業活性化センター	62-2410	○	○	○

※ 災害が発生し、避難所を開設する際はコロナ禍の状況及び災害の規模等を考慮して、町で開設する避難所を指定します。広報車、SNS等で町民の皆様には周知しますので、開設する避難所への経路（避難所への経路は土砂災害警戒区域等及び浸水範囲に該当していない経路を選定）を確認し、安全に避難されるようお願いいたします。

6 わが家の「緊急・救急情報」防災メモ

(1) 家族の集合場所

集合場所	避難所・避難場所	連絡方法

(2) 家族の連絡先及び救急情報

氏名	続柄	電話番号(自宅・携帯)	生年月日	血液型	救急情報
				型	
				型	

(3) 親戚・知人

氏名	間柄	電話番号

(4) かかりつけ医療機関

医療機関名	電話番号

保存版
2022年7月

上砂川町防災ハザードマップ (概要版)

表面-記事面



裏面-地図面



上砂川町

1 はじめに

2022年2月上旬に町内の各世帯に「上砂川町防災ハザードマップ」を配布いたしました。このハザードマップは、町民の皆様が万が一の災害発生時に「命を守る」、「地域を守る」ための迅速な行動と知識を身につけていただくことを目的として作成しております。本概要版とともにハザードマップを大いに活用していただくことをお願いいたします。

2 警戒レベルの一覧表

警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けしたもので、町が避難情報と併せて出す情報です。町から発令するのは警戒レベル3～5となります。

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
5	災害発生又は切迫	命の危険、直ちに安全確保！	緊急安全確保
＜警戒レベル4までに必ず避難！＞			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報 (気象庁)
1	今後気象情報悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)

3 避難の心得10項目

もしもの災害が起きた時、慌てずに行動できるように確認しておきましょう。

- 1 最新情報を入手**
 - ・ラジオ・テレビから最新の気象・災害情報を入手する。
 - ・危険を感じたら避難準備する。
- 2 呼びかけに注意**
 - ・町役場、消防署、警察署からの避難の呼びかけに注意する。
- 3 ガスの元栓を閉める**
 - ・地震後はガス器具等が壊れている場合があるので、ガスが復旧した際の爆発の危険性を回避するため元栓を閉める。
- 4 ブレーカーを落とす**
 - ・停電時でも必ずブレーカーを落とす。
- 5 連絡・メモを残す**
 - ・安否情報、連絡先などのメモを残す。
 - ・電話混雑を避けるため、SNSなどを利用する。
- 6 2人以上で避難**
 - ・できるだけ1人の避難は避ける。
 - ・子供から目を離さない。
- 7 助け合って避難を**
 - ・子供や高齢者、病気の人などは避難に時間がかかるので早めに避難する。
 - ・近所の方は積極的に協力する。
- 8 安全な避難**
 - ・浸水があった場合は、溝や水路に十分注意する。
 - ・がけ地などでは土砂災害のおそれがあるので注意する。
- 9 避難は徒歩で**
 - ・車での避難は、緊急車両通行の妨げや交通渋滞を招くほか、浸水により動けなくなるおそれがあるので、徒歩で避難する。
- 10 避難に遅れたら・・・**
 - ・万一、避難に遅れ危険が迫ったときには、近くの丈夫な建物のできるだけ高いところに逃げる。

4 避難方法について

危険を感じたらすぐに自主避難

突発的な異常気象の場合は、町からの避難情報が間に合わないケースがあるため、その際には、身の危険を感じたら安全な場所にいる家族や知人の家、町が開設した避難所などへ自主的に避難しましょう。

命を守る最低限の方法とは

危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。

危険が切迫している場合は、**指定された避難所への移動（①水平避難）**だけでなく、**命を守る最低限の行動（②垂直避難）**が必要な場合もあります。

例えば、

- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している（50センチ以上）。
- 浸水は20センチ程度だが、水の流れる速度が速い。
- 浸水は10センチ程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。



②垂直避難：上記の場合、屋外への移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討しましょう。

感染症拡大を抑えるための分散避難

災害時の避難所に多人数が集まれば、密集した空間となり、感染症リスクが高まる恐れがあります。以下を留意して「分散避難」の考えをもって行動しましょう。

- 避難の必要性を再確認する。**
あらかじめハザードマップ等で自宅周辺のリスクを把握し、災害時には自分に避難が必要なのかを再度確認して、避難所への**不要な移動を行わない**ようにしましょう。
- 縁故避難も視野に入れましょう。**
避難所で密集することを避けるためには、**災害危険のない親戚や友人、知人の家などへ避難が可能か確認しておきましょう。**
- 避難所への避難が必要であれば・・・**
避難所で十分なスペース確保や換気が行われていても、「**避難所には感染症拡大のリスクがある**」ことを再認識して、感染防止に役立つ物品を用意し、安全に避難しましょう。
マスク、消毒液、除菌シート、体温計等の物品は日頃から用意しておきましょう。